

校長室の窓から

失敗の科学 ～ なぜ失敗が大切なのか ～

「若い時の失敗は、買ってでもしろ。」なんて、とんと聞かなくなった…
と思っていたら、テレビでは「現代は失敗が許されない社会だ。」と言って
いました。さらに、「失敗を糾弾する社会になった。」とも…うーん。

以前紹介した作家でエンジニアの黒川伊保子さんが、その著書で繰り返し言うておられることは、「失敗が脳を育てる」ということ。

しかし最近の教育や子育てでは、「成功体験」を大切にしています。さらに、『失敗は心の傷になるから』と、できるだけ回避しようとさえしています。しかし、成功体験をいくら積み重ねても脳は賢くならない。ちょっと衝撃。

とはいえ、成功体験にもちゃんと意味があります。成功体験は「やる気」を高めるということが、心理学的にも臨床的にも確かめられています。

つまり、成功体験は心を育て、失敗体験は脳を育てる。そう言ってもいいと思います。ただ、成功体験なら何でもいいというわけではない…そのお話はまた別稿で。

黒川さんが、失敗することの重要性に気付いたのはAIの研究から。AIは、人間の脳をモデルにした「ニューラルネットワーク」で構成されています。そのAIを「賢く」成長させるには、失敗の積み重ねが不可欠。

そんな研究の結果から、人間の脳の成長にも失敗が欠かせないことに気づいたといえます。ただ、人間は失敗を生かすのが下手。だから、次の『失敗3か条』を守らないといけないと提案しておられます。

- 1、失敗は誰のせいにもしない
- 2、過去の失敗をくよくよ言わない
- 3、未来の失敗(できない理由)をぐずぐず言わない

この3か条を守っていると、寝ている間(22時から午前2時の間)に脳が勝手に賢くなるのだそうです。

ところで、先日息子と話をしていたときのこと。
「いっぱい失敗したから今のお前がある。」みたいなことを、励ましのつもりで言ったら、
「僕は失敗したのかなあ。失敗したら『おしまい』だし。」と不満げな息子。さらに、
「『いい経験』はした。」とのこと。

彼は「失敗はいけない」社会の中で育った世代。だから、「失敗をたくさんして成長する人間」という人間観や、「失敗を買ってでもする」という価値観がないのでしょうか。なにしろ、失敗したら『おしまい』ですから。

『おしまい』になりたくないから、失敗をいろんな方法で言い換えて、覆い隠してきたように思います。人のせいになしたり、社会のせいになしたり、事実を捻じ曲げたり。そして、すべて失敗を『いい経験』などと簡単に言い換える。結果、「『いい経験』はたくさんしてきたけど、失敗はしていない。」となる。

「あのね、自分の失敗に対して『いい経験だった』と言い替えてもいいのは、失敗を失敗としてちゃんと受け止め、自分自身を『失敗する未熟な人間』として理解し、失敗の一つ一つを丁寧に乗り越えてきた人だけだ。父はそう思う。」

『失敗の科学』(マシュー・サイド)という世界的なベストセラーがあります。失敗からの学び方が書かれている。というか、人間はいかに失敗から学ばないかということをや々と書いてるような…。

人間が失敗から学べない理由は、間違った前提を信じ込んでいたり、偏見があったり、自説にこだわったり、自己正当化したりすることで事実が見えなくなっているからという。失敗から学べず、改善に至らないこの現象を、自らの内側に原因があるという意味で、クローズド・ループ現象というそうです。この現象、どうもそこらに転がっている…。

また、こんな実験も紹介されています。

陶芸クラスの学生を、作った作品の「数」で評価する集団と、「質」で評価する集団とに分けて制作させた結果、「良い作品」をつくったのは圧倒的に「数」のグループだったそう。そして、「質」グループの成果は、「壮大な理論と(手つかずの)粘土の塊」という滑稽な結果に。

だれでも、失敗はしたくないでしょうし、してはならない失敗もあるでしょう。しかし、「失敗しない社会」とか「失敗を糾弾する社会」は、人の脳の成長を阻害する。

私は、失敗を恐れて粘土の塊に埋もれるのはまっぴらです。それは、「脳の成長を阻害するから」という科学的理由からではなく、未来の失敗を恐れてチャレンジしない人生なんて、ぜんぜん楽しくないからです。